



鳥取県の主な古墳時代前期の古墳

ふるみ ごう ふん 令和7年度 古海 36 号墳現地説明会資料

鳥取県埋蔵文化財センター



後方部墳頂から土器が出土した様子

鳥取県埋蔵文化財センターでは、令和5年度から本高・古海古墳群の調査を行っています。この古墳群には、県内最古級の前方後円墳である本高 14 号墳をはじめ、大型の前方後円墳・前方後方墳が近接して築造されており、その変遷などを調べることによって、鳥取平野の古墳時代開始期の様子を明らかにすることを目的としています。令和7年度は昨年度に引き続き、全長約 65mの前方後方墳である古海36号墳を対象として、墳丘の形状や築造方法、築造時期の確認を目的とした発掘調査を実施しました。

【令和7年度の調査概要】

- 1 調査期間 令和7年6月30日（月）から11月14日（金）まで（予定）
 - 2 調査面積 約 90 m²（7箇所のトレンチ（試掘溝）を調査）
 - 3 古海36号墳の調査で分かったこと
 - 墳丘の詳細な形状を確認。あわせて、後方部は地山削り出し・前方部は盛土で造られたことを確認。
 - 後方部頂部から壺形土器などの葬儀に使用された土器や、円筒埴輪の破片が出土。
 - 出土した土器の時期から、古海36号墳は古墳時代前期（約 1700 年前）に造られたことを確認。
- ☆鳥取県内の古墳時代前期の前方後円墳・前方後方墳の墳丘頂部から土器が出土した例は珍しく、当時の葬儀の様子を明らかにする上で重要。



もとだか ふるみ 本高・古海古墳群

鳥取平野の千代川左岸に所在する本高・古海古墳群は、本高古墳群で22基、古海古墳群で65基の、合計87基の古墳が知られています。

古墳群内には前方後円墳・前方後方墳がいくつか含まれており、このうち本高 14 号墳は発掘調査によって県内最古級の前方後円墳であることが明らかにされています。また、古墳時代最終末に造られた山ヶ鼻古墳（方墳、約 13m×11m）は横口式石槨という特異な横穴式石室をもっています。このように、この古墳群には古墳時代の初めから終わりまで、鳥取平野を代表する古墳が築造されており、因幡地域の古墳群の中で重要な位置を占めていたと考えています。



本高古墳群（北上空から）

もとだか 本高 14 号墳

本高古墳群は、一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴い、7基の古墳が発掘調査されています。その内、本高 14 号墳は全長63mの県内最古級と考えられている前方後円墳です。この古墳は、この地に古墳が築造され始めた頃にヤマト王権に認められた地域の首長墓と考えられています。



こがたぼうせいないこうかもんきょう
小型仿製内行花文鏡



まがたま くだたま
勾玉・管玉

本高 14 号墳埋葬施設 3 出土遺物

<出典>鳥取県教育委員会 2010『本高古墳群』を一部改変

鳥取県埋蔵文化財センター

住所：〒680-0151
鳥取県鳥取市国府町宮下1260

電話：0857-27-6711

E-mail maibuncenter@pref.tottori.lg.jp

後方部墳頂部

有力者が埋葬されていると推定される古墳の中心部分です。
土器や円筒埴輪片が出土しました。

トレンチ9



円筒埴輪片の出土状況



土器の出土状況

墳丘の上に堆積した土の中から円筒埴輪の破片が出土しました。出土状況から見て、この場所に立てられていたものではないと考えています。

円筒埴輪片の下からは、高坏や小型丸底壺などの飲食に使用される土器が出土しており、こちらは葬儀の際にこの場所に置かれた可能性が高いと考えています。



縮尺 1/10

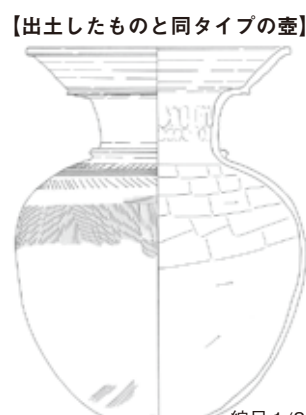
古海 40 号墳出土

(財) 鳥取市教育福祉振興会編 1996『山ケ鼻遺跡Ⅱ』より転載

トレンチ 10



土器の出土状況



縮尺 1/8

倉吉市夏谷遺跡出土

倉吉市教育委員会編 1995『夏谷遺跡発掘調査報告書』より転載

墳丘の上面付近で、数個体の土器が葬儀の際に置かれたと推定できる状態で出土しました。これらの土器は、いずれもよく似たタイプの壺と考えています。

トレンチ3

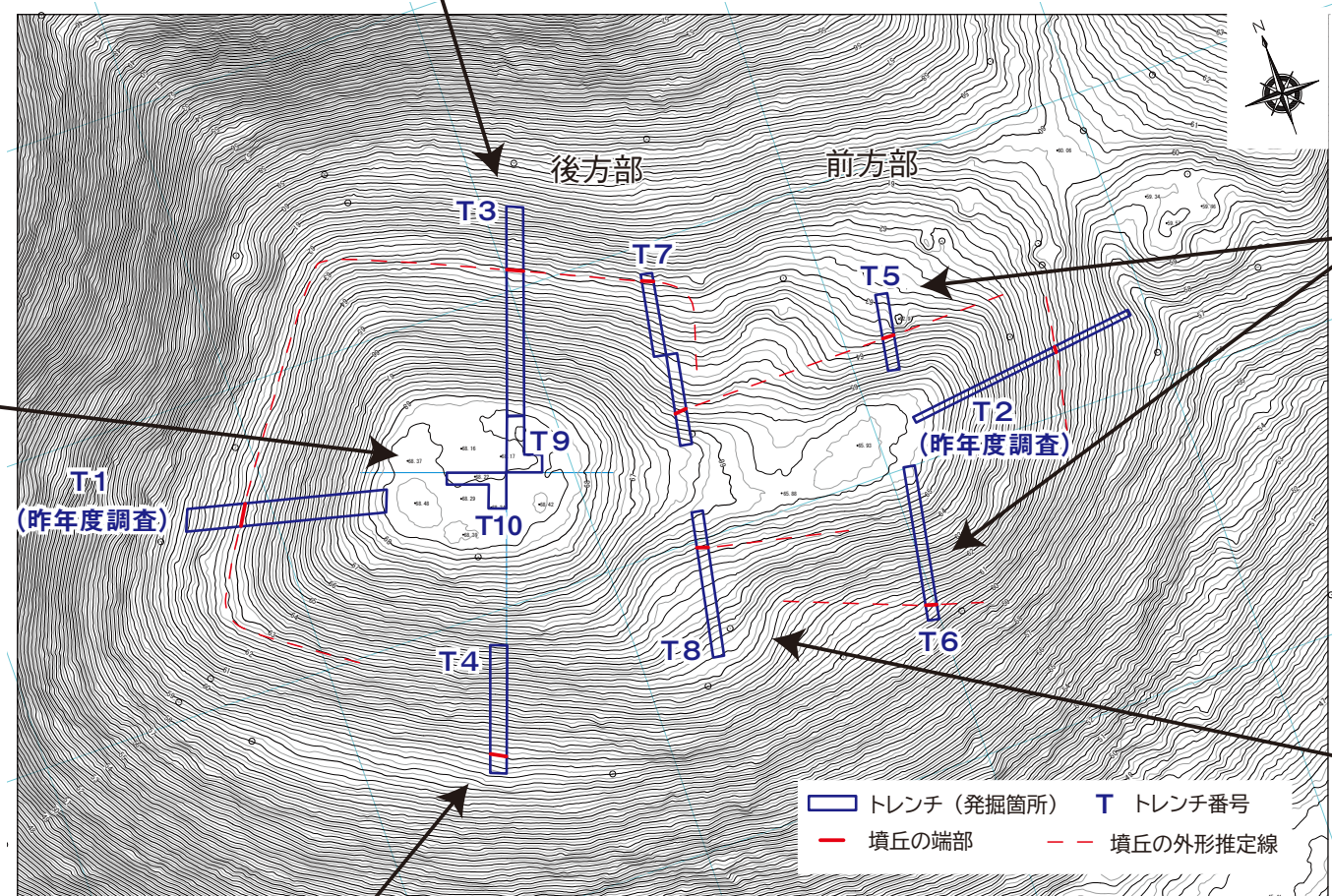
後方部の北斜面は丘陵を削って成形していることを確認しました。墳丘の端部の外側には平坦な面を削り出しており、墳丘の外形を明確に認識できます。



墳丘斜面

墳丘端部

平坦面



古海 36 号墳トレンチ配置図

トレンチ (発掘箇所) T トレンチ番号
墳丘の端部 墳丘の外形推定線

0 10 20 30 m

トレンチ4

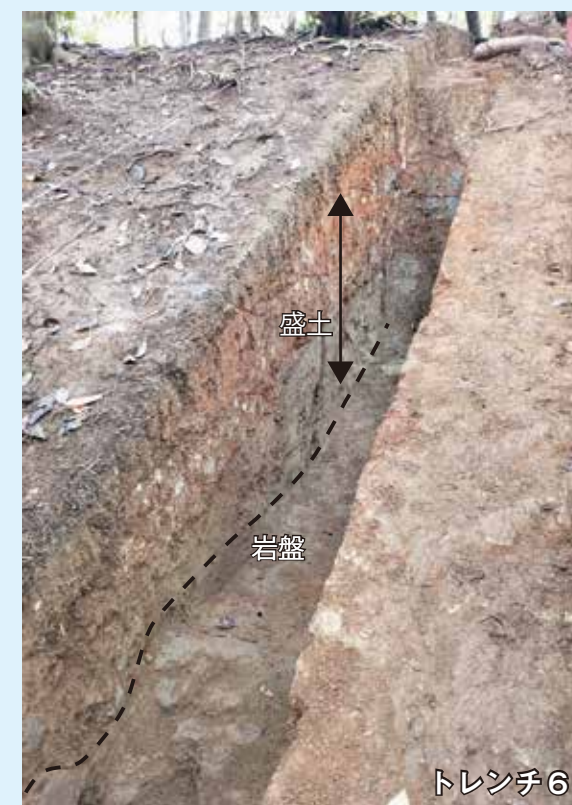
後方部の南斜面は丘陵を削って成形していることを確認しました。ただし、斜面の傾斜が変化する位置が北側や西側に比べてかなり低く、墳丘の外形ラインがつながりません。南側は後方部の墳丘の裾を明確に造る意図がなかったのかもしれませんが。



傾斜変換線

トレンチ5・6

前方部の東側では、丘陵の岩盤を一旦階段状に削った後、その上に盛土を施して墳丘を築いていることを確認しました。大がかりな土木工事が行われた様子うかがえます。



盛土

岩盤

トレンチ6

トレンチ7・8

前方部の付け根付近（西側）では、丘陵の岩盤を削り出して墳丘を成形していることを確認しました。



墳丘端部

トレンチ8